

新年のご挨拶

公益社団法人 東京都ペストコントロール協会 会長 清水 一郎

新年あけましておめでとうございます。

東京都ペストコントロール協会にとって激動の2年間が終わりました。

東京協会無くして都民の安全安心を守れるかが問われる中、新型コロナ対応、ヒアリ対策において会員の方々と倒れるまでは闘うのだという気持ちで業務をのりきりました。協会対応ではなく、1会社対応ではとても立ち向かえなかったと正直に思います。会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、幾多の困難な事象が起きることを、今までもPCOの方々は多く経験してきていると思いますが、これから10年、20年、50年後に東京は、日本は、そして世界はどうなっていくのでしょうか？ビルゲイツの言うように、戦争よりはるかに脅威である感染症対策にこれからどう立ち向かっていくのでしょうか？東京、日本、世界とでは立ち位置は違うにしてもグローバル化の中での今回の新型コロナウイルスにより世界は一つなのだと気づかされたのではないのでしょうか。

我々PCOの役割は公衆衛生全般の対応のために常に人材確保、訓練、そして備蓄を充実させて、機動力を生かし、即時対応できる準備をしておかなければなりません。我々は感染症のみではなく、害虫獣、大きく見れば環境全般を扱う、医者でいうところの総合医であり、専門医のように偏った判断ではなく、全体像を見て判断する力を持った者の集団であり、総合医であるからこそ緊急時だけでなく平時においても必要とされる存在となります。生物全般を扱う上で、その対策のための計画、調査、防除そして効果判定までを一貫して設営できる能力、そしてその必要額を見積ることまでできることは数式に当てはまることではなく、全体を見る観察力と経験が必要になります。医者は結果がでるまでの見積もりをしませんからPCOの能力はすごいものだとつくづく思います。

しかし、今後のPCOに求められる能力は今までの経験を書面に残す文章作成能力と文章保存が必要かと思います。医者が行うインフォームドコンセントによる説明責任、そして相手の確認を書面で交付する事が重要になります。また、調査、防除、効果判定を行った際のレセプト(医者での診療報酬明細書)、つまり、PCOが行った作業、薬剤の内訳を明確にし、相手に明示し、保存することが求められます。このデータ作成とストックをしっかりと行えばよりデータ開示がスムーズになり信頼が増すでしょう。結果を出した後の処理をきちんと行えば次に起こりえることの準備にも繋がります。

都民の方々、行政の方々の信頼を得て、的確に相談に応じるためにも東京協会の会員の方々とより一層の努力と勉強をして、PCOの確固たる地位を築き上げましょう。

今年、何が起ころうとも東京都ペストコントロール協会の会員の皆様がいれば、何でもできる。そう自信を持って言えます。